

2025年度「世界とつながる島根づくり助成金」交付事業一覧

①事業概要 ②実施場所 ③実施時期 ④助成額 ⑤成果等

整理番号	事業名	団体名	概要
1	第16回さくら英語スピーチコンテスト	雲南市 国際文化交流協会	<p>①雲南市内の小中学生を対象とした英語スピーチコンテスト。身近な地域のことをテーマとする。CIRやALTの協力を得て原稿を作成し、合同練習会、リハーサルを経てコンテストを開催。</p> <p>②雲南市 ③11月16日 ④27,000円 ⑤参加者21名 来場者約90人 「誇りを持って英語でふるさと紹介ができるように」を目的に開催。低学年でも練習を経て、当日にはジェスチャーを交えながら表情豊かに発表。参加生徒・家族・ALT等みんなの協力でのアットホームなコンテストになった。</p>
2	日本語教室	出雲 日本語ネットワーク	<p>①在住外国人への定期的な日本教室の運営。 ②出雲市（出雲市総合ボランティアセンター） ③通年 ④102,000円 ⑤ボランティア：14人程度 学習者：延べ約330人（10か国） 各学習者の生活レベル向上や困りごとの解決や日本語能力試験の合格者を出すことができた。会話希望者は、日本人とだけでなく、異なる国の人と話すことにより、国際理解にもつながった。学習者が話す時間を増やすようテーマ発表等も取り入れる等工夫しながらやっていきたい。</p>
3	日本語教室事業	多文化交流くらぶ つながるーむ	<p>①日本語教室、日本や世界の文化を紹介・体験できるイベントやワークショップの企画・運営。邑南町近郊での国際交流・多文化共生のイベントサポート。やさしい日本語と多言語での邑南町や近郊のイベント・観光案内等の情報発信。</p> <p>②邑南町内公民館を巡回 （矢上交流センターを中心に） ③通年 ④124,000円 ⑤日本語交流教室「ワールドチャット」8回・15人 「世界のごはんdeつながるーむ」7回・73人 「多言語フォーラム」2回・22人 「文化体験・トークイベント」9回・137人 「写真展」12回ほか（人数はのべ） 日本語教室を通じて様々なつながりが生まれた。日本語や外国語のアウトプットの機会をつくり、参加者の意欲向上になった。邑南町近郊に住んでいる外国人への認知や文化理解が推進できた。</p>

4	日本語教室	ひかわdeにほんご	<p>①市内の外国人住民が日本人と理解・協力しあい、よりよい地域生活が過ごせるように、日本語指導を通して支援。</p> <p>②出雲市（アクティーひかわ）</p> <p>③通年</p> <p>④109,000円</p> <p>⑤ボランティア：15人 学習者：のべ約220人 学習者の気持ちを考慮した学習の場を提供できた。日常での表現を学べるよう心がけた結果、職場・地域でのコミュニケーション能力の向上に貢献できた。スタッフも異文化への理解が深まり、世界の多様性に目が開かれた。</p>
5	地球のステージ in いずも 2025	地球のステージ 応援団いずも	<p>①世界や日本国内の紛争地や災害被災地で支援活動をしている団体の代表による公演。関連展示、地域の子どもたちの参加や意見交換、応援支援物販を行った。</p> <p>②出雲市（アクティーひかわ）</p> <p>③12月13日</p> <p>④200,000円</p> <p>⑤来場者：大人120人 高校生以下50人以上 青少年をはじめ地域の方々に、日本や海外の被災地の状況を自分事として考えてもらうことができた。10回以上の開催を重ね、地域への定着も少しずつすすんでいると感じる。</p>
6	在住外国人等の 資格取得・就業支援の ための日本語学習支援	日本語ボランティア 奥いずも	<p>①就労等による時間や収入等の都合で、有料の日本語学習を受けることが困難な方を中心に、日本語学習を支援。</p> <p>②奥出雲町（農村婦人の家）</p> <p>③通年</p> <p>④62,000円</p> <p>⑤学習者 約18人、ボランティア16人 当番制として、交代で担当。できるだけ、マンツーマンで対応。学習後、懇談の時間を取り、お茶を飲みながら会話する。助成により新しいテキストを購入できた。</p>

7	笑顔つながる夏まつり	公益社団法人 松江青年会議所	<p>①文化・音楽・食を通じて異文化を五感で体験するイベント。多国籍フードフェスではアイルランド・ベトナム等の飲食ブース。異文化ワークショップとして遊び・クラフト・文化紹介など親子で楽しめる企画（LEDランタン製作・韓国の型抜き・台湾のエビ釣り等）。食・音楽・体験を通じて、新たなつながりを創出。</p> <p>②松江市（千鳥南公園周辺）</p> <p>③8月16日</p> <p>④200,000円</p> <p>⑤アンケート回答者の約半数から「外国の文化を感じることができた」との回答を得た。チラシやInstagramの広報により、目標の倍以上（約2,900人）の来場があり、大盛況だった。市が整えた水辺ステージアエリアを、民間団体として初めて活用した。</p>
8	日本語教室	日本語ボランティア ゆうわ	<p>①出雲市居住の外国人が生活者としての日本語を学習するための支援。行事やイベントへの参加を通じて、日本の文化に触れるとともに地域住民との交流を図る。</p> <p>②出雲市（社会福祉センター）</p> <p>③通年</p> <p>④153,000円</p> <p>⑤ボランティア：15人 学習者：のべ520人 学習者がのべ500人/年を越え、活動に活気が戻ってきた。ブラジル人のほかロシア人も増えた。日本語学習の成果向上のほか、交流の時間に互いに日本語で話す姿にやりがいを感じる。日本文化を知る行事を年5回開催。</p>
9	国際化環境づくり事業 日本語ボランティア 研修会	浜田国際交流協会	<p>①外国人住民との関わり方や必要とされる日本語支援についての研修会。（地域日本語教室の役割、やさしい日本語、外国人市民の「声」を聴く）</p> <p>②浜田市（石見まちづくりセンター）</p> <p>③11月15日</p> <p>④33,000円</p> <p>⑤参加者：17人（うち6人は新規者） 日本語ボランティア教室を知らない方へのよい機会となった。 経験に関わらず誰にもわかりやすい内容だった。やさしい日本語の書き換えや、ゲストとの交流等実践的な講義が好評だった。研修後ボランティア教室への参加者があった。</p>

10	言語的・文化的に多様な子どもたちの居場所づくり2025	こどもサポートプロジェクト	<p>①市内3地区において、言語的・文化的に多様な子どもたち（＝すべての子ども）の「居場所」を定期的開催。学習支援（宿題・日本語）、アクティビティの他、合同イベントも開催。地域イベントに参加、スタッフ研修を実施。</p> <p>②出雲市（直江・塩冶・四絡地区）</p> <p>③通年（土日祝日及び長期休暇期）</p> <p>④113,000円</p> <p>⑤参加者：のべ約300人（スタッフ除く）</p> <p>どの会場に参加してもよいことの再周知により、学校や地区を超えた子どもどうしの関わり合いが生まれた。継続により、子どもや卒業生たちにとって「行きたいときに行ける場」「戻って来られる場」になっていると実感する。</p>
11	ポルトガル語母語教室2025	こどもサポートプロジェクト	<p>①本人または親がポルトガル語を母語とする小・中学生を対象とする母語保持・習得のための教室を開催。季節のイベント参加を通じた言語・文化への接点づくり、他の活動との合同イベントを実施。</p> <p>②出雲市（塩冶地区・斐川地区）</p> <p>③5月～3月 主に月曜日の放課後</p> <p>④122,000円</p> <p>⑤クラス参加者：のべ約70人、体験イベント参加者：約50人（子ども・大人・スタッフ計）</p> <p>教室への継続参加者は減少したが、新規で7名が受講した。母語習得の機会を希望する保護者からのニーズがある。日本語が母語のスタッフもポルトガル語を学ぶことによって、子どもと大人がお互いを認め合う雰囲気が醸成された。合同イベント等、多文化なコミュニティへの参画・貢献が保護者の心身の安定・安心につながることを感じた。</p>
12	アジアフェスタ @ごうつ2025	アジアフェスタ @ごうつ 実行委員会	<p>①地域在住の外国人との交流により相互理解を進め、豊かな地域づくりに賛同する団体や個人にて実行委員会を結成し、屋台・ステージパフォーマンス・日本語スピーチコンテスト・異文化体験ブースなどで構成されるイベント。</p> <p>②江津市（パレットごうつ）</p> <p>③11月9日</p> <p>④170,000円</p> <p>⑤来場者：約1,500人</p> <p>荒天にも関わらず、多くの外国人・地元住民双方の来場者があり、外国人と日本人とが一緒に作るイベントとして定着してきたことが実感できた。学生ボランティア（高校生と大学生）20人の参加があり、積極的に外国人と交流している姿により、多文化共生のよい未来を感じることができた。また、参加者の多くがSNSで発信しており、楽しさが広く伝わった。</p>

13	地球のステージ @江津2026	地球のステージ江津 公演 実行委員会	<p>①世界や日本国内の紛争地や災害被災地で支援活動をしている団体の代表による語りと映像と音楽を複合させた公演を開催。併せて、被災地支援バザーやJICA海外協力隊活動写真展等も開催。</p> <p>②江津市（パレットごうつ）</p> <p>③2月14日</p> <p>④200,000円</p> <p>⑤来場者：約100人（一般80人、高校生以下20人）ネットやテレビのニュースでは届かない「現地の体温、空気」を参加者が感じとれた。紛争地の現実から、自分たちの日常が「当たり前ではない」という深い気づきが生まれた。</p>
----	--------------------	--------------------------	---